



がんばっPayいわき 市が還元キャンペーンへ

市は、三月一日から三十一日まで、「がんばっPayいわき」と題し、キャッシュレス決済へのポイント還元キャンペーンⅡ「チラシ左Ⅱ」を実施する。

コロナ禍で落ち込む市内の消費喚起、市内店舗への経営支援、キャッシュレス決済の導入促進を図ることを目的とし、高齢者などキャッシュレス決済を使い慣れていない市民に対しては、市内のソフトバンクショップ各店などで説明会を開催する。

同キャンペーンは、市とキャッシュレス決済会社が指定した市内の中小企業が対象で、PayPayを利用した支払いに対し、ポイント還元する仕組み。

一回あたりの付与上限は三千



円（支払い額一万円）で、期間中に最大で一万五千円（同総額五万円）がポイント形式で戻ってくる。

市が提供している行政サービスの利用料、金券類、印紙、そのほか、有価証券の支払いは対象外となる。

PayPayに関する問い合わせは、カスタマーサポート窓口（フリーダイヤル〇一〇一九九〇一六三四）。事業の詳細は、市産業振興部産業創出課（電話「二一―二二エ」）まで。

平の小野美術で 「月形親子展」開く

平字中町、小野美術は二月三日から十五日まで、「炎の陶工・心象画家」として親子二代で知られる作家、「月形明比古・那比古展」を開いた。

会期中は、息子の月形明比古さんが岐阜県から来廊。終日、来場者向けに作品解説を行い、二〇〇六年に死去した父、那比古さんの作品と併せて、絵画、

富士山の生命力、神秘性などを表現した絵画を前に明比古さん



陶芸、彫刻、書など大小八十余点が展示された。

極限までの長時間焼成を行って、独特の風合いを出した「鬼志野」が人気を呼び、訪れた客からは感嘆の声を上げていた。

明比古さんは、「東日本大震災直後の企画展からはや十一年。いわきの人たちと会場で話し、その風土からつかむことができた心と、私の作品を通して元気を伝えることができれば」と、語っていた。

環境に優しく 磐城通運に優秀賞 エコドライブ評価

環境に配慮した低燃費運転の取り組みを表彰する、今年度の「エコドライブ活動コンクール」で、平字十五町目、磐城通運（興津昭昭社長）が優秀賞に選ばれた。同賞を受けたのは全国七事業所だけで、本県では唯一。

同コンクールは、交通エコ

ロジー・モビリティ財団Ⅱ東京都Ⅱが毎年開催。今年度は一千四百三十一事業所が応募した。

同社では、環境問題対策委員会を設けて毎月会議を行い、各支店・営業所の取り組み状況を確認。社員研修や車両点検なども実施し、活動を推進してきた。平成十六年度比で二〇％の燃費向上を目標に掲げ、令和二年度には一八％向上を達成した。

コンクールではこれまで、支店・営業所単位で優秀賞に計七回選ばれ、今回は初めて法人として受賞。環境保全に取り組み運輸事業者に対する「グリーン経営認証」の永年登録事業所として表彰されていたことも、評価されたという。

興津社長は、「エコドライブ活動には、交通事故防止などの相乗効果もある。この取り組みの形を継続しながら、より安全で環境に優しい会社経営を行っていきたい」と話していた。

賞状を手にする興津社長（左）と鈴木孝雄常務



コンカレで卒業 研究成果を発表



IT用語を用いたパズルゲームを発表する学生ら

泉町、いわきコンピュータ・カレッジ（田口周二校長）は、二月二日同校で、「令和三年度卒業研究発表会」を行い、三月末に卒業見込みの三十五人の学生が参加、研究成果を発表した。卒業研究は、WEB上で動作する学校案内アプリの制作、IT用語を用いたパズルゲーム開発、AI（人工知能）による画像生成技術など、さまざまな分野で約半年間にわたって行われた。

昨年に引き続き、ウイルス感染症対策として、オンライン中継を実施。同校関係者などがインターネットから発表会を視聴し、質疑応答に対応。

最後に行われたAIによる画像生成の研究は、漫画のキャラクターなどを手書きし、人工知能が読み込んで自動学習。原画に近い絵柄にするため、学習回数や手書きサンプルの選定を試行するなど、踏み込んだ研究内容に、驚きの声が上がっていた。